

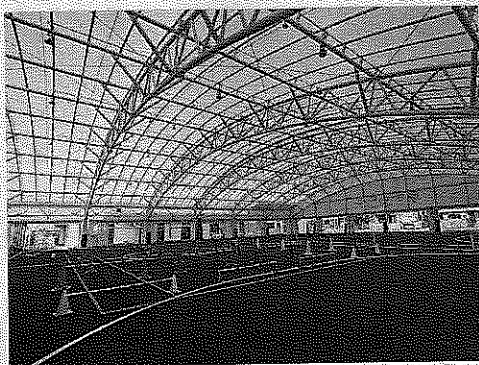
学童保育事業 宿題も運動も

学校法人の三幸学園(東京・文京)は4月、小学生の子どもが放課後を過ごす学童保育事業を始める。さいたま市と横浜市で既に運営している保育施設に併設する形で開始。預かるだけ

三幸学園

でなく、学習塾と連携した教材を提供、宿題や運動をサポートするスタッフも配置する。今後は東京都内などにも開設する計画で、子どもを預ける場所を探している共働世代帯の利用を見込む。

さいたま・横浜で開始



運動施設でサッカーなどができる(キッズ大陸さいたま野園)

塾の教材を活用

民間学童を巡っては、栄光ホールディングスなどの学習塾運営会社や、鉄道会社の参入が相次いでいる。首都圏では保育

所に入れない待機児童問題が依然深刻な一方、小学校に入学後の子どもの預け先の確保も課題となっており、民間学童の裾野が広がりをうたう。専門学校などを手掛ける三幸学園は「キッズ大陸」の名称で保育施設を展開。学童保育はその施設に併設する。対象は小学校1年生～6年生で、放課後から最長で午後9時まで預かる。いずれも当初は20人規模で始める。

放課後に半径3キロ以内の駅もしくは小学校までバスで迎えに行き、学校の宿題や自習をしたり、運動したりして過ごす。

子育て 2014

子どもを送り迎えしやすくなる

宿題の時間には大学生が指導役として付くほか、運動時も三幸学園のスタッフが常駐する。学習面では、関西地盤の進学塾、浜学園(兵庫県西宮市)と提携。浜学園が作成した算数や国語の教材を学べる。

共働き世帯の子どもは小学校に入学後、放課後児童クラブに預けられることも多いが、預かり機能を中心。キッズ大陸の学童保育では、例えば週末5日預ける場合、施設内でも検討する。

1人乗り移動ロボ実験

宇都宮大、つくばの特区で

宇都宮大学は7日、学カメラで障害物などを認識する自動移動ロボットを移動ロボットの検証実験を開始した。建物の鉄骨などによって生じる地磁気の乱れを目印に、ロボットが位置を確認しながら走行する磁気ナビゲーションシステムを採用。開発した搭乗型移動ロ

地域情報ヘッドライン

- 東北** 被災3県の企業、売上高の回復鮮明に
- 東京** シニア、外国人対応のボランティアに
- 中部** トヨタ系販売店、消費増税控え販促
- 北陸** 全日空、3空港利用キャンペーン
- 近畿** 京都・四条通、歩道広げ人にやさしく

ボット「nena」は全長1・3メートル、幅70センチ、高さ70センチ。前輪2輪駆動で後輪は1つしかない。鉛電池を搭載し、1回の充電で4時間程度稼働する。最高速度は時速6キロ。実証実験は茨城県つくば市のモビリティロボット実験特区で行っている。

埼玉県上尾市と同県ときが、園でプリザストーンサイクルや商店の有志が「ど